

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100223		
法人名	株式会社 オハナ		
事業所名	三ヶ日グループホーム		
所在地	浜松市北区三ヶ日町都築2922-2		
自己評価作成日	令和3年 1月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナウイルス感染拡大の防止の為、外出や外部の方との行事を中止しています。「心に寄り添い、心と心が通う時間を」という理念があり、具体的な方法として傾聴を掲げている。「目線声の調子を合わせる」「話安い雰囲気作りを心掛ける」「なずき、あいづち、スキンシップを行う」という、3つの目標を朝礼で復唱し職員の行動指針を定めていき、利用者様本位の生活が送れるように、教育をこなしている。日常生活でそれぞれの利用者様の出来ることを見つけ、掃除や洗濯、調理を手伝っていただきながら生活することで生き生きとした表情が見られるように支援を行っている。畑での農作業、収穫を行っている。職員においては介護福祉士を取得している職員が半数以上勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基に事業所理念を作成し、傾聴を中心に支援を行っている。事業所は昔からの住宅が並ぶ場所を通り過ぎた山の中腹にあり、事業所を通り過ぎると別荘地が広がる場所に位置している。広い畑があり、現在は何も植えていないが、収穫を行った時には昼食の食卓に上り自然の恵みに触れ合う機会になっている。今は思うように外出できないが、施設の周りを散歩し筋肉が弱らないようにしたり、駐車場横の桜の木の下にテーブルと椅子を設置し職員と利用者が一緒に昼食の準備を行うなど、利用者のやれることを支援している。管理者は職員教育をしっかりと行い、仕事として長く続けてもらえる環境作りをしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「心と心に寄り添い、心と心が通う時間を」を玄関へ掲示している。理念に基づき傾聴を軸とした目標を日報に記載し朝礼時に出勤職員で共有行っている。	法人理念のもと事業所理念「目線を合わせる」「話やすい雰囲気づくりを心がける」「うなずき、あいづち、スキンシップを行う」を朝礼時に唱和を行い、傾聴に重点を置いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の拡大の為、地域行事への参加や近隣小学校との交流ができていない。秋祭りも施設内での開催にとどめて行った。	今年度は外に出ることはできていないが、以前は幼稚園児との交流や小学生の職場体験、子供会が祭りの際に立ち寄っていた。また、敬老会でも参加できる方で交流する等、様々な世代と触れ合う機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度までは月に一度の認知症カフェを行っていたが、コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度は開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染症の拡大防止の為、今年度は書面開催とさせていただいた。FAXやメールを用いて報告についての評価や助言を受け、議事録を閲覧できるようにしている。	今年度は書面開催であるが、参加者から転倒が多いのではないかと、との意見から夜間のベッドからの起き上がり転倒予防のために、センサーマットの設置を行っている。議事録は各参加者に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からのコロナウイルス感染対策チェックリストを受け、手指消毒の取行状況や職員の健康管理、マスクの着用状況、感染発生時に必要な物資の確認を行っている。	感染発生時における備品について、市の感染対策チェック表で確認し、物資倉庫に設置している。職員全員、設置場所の把握をしている。生活保護者が入居し始めたため、市との連携を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていない。身体拘束をすることで認知症状の悪化にもつながる事を理解できるように身体拘束対策委員会を開催しケアについて話し合いを行っている。	3ヶ月に一回身体拘束委員会を行い、利用者を名前で呼ぶこと、同じ名前の方がいた場合フルネームで呼ぶことを徹底している。管理者はまだ研修不足などところが多くあると感じ、全てにおいて研修をしっかりと行いたいと考えている。	管理者は身体拘束以外にも研修不足を認識している。言葉を発する前に感情的にならないようにすること等、今後研修に力を入れていきたいとの思いがあり、早期に研修の出来る体制を整えることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待防止法について説明を行っている。虐待や不適切なケアが見過ごされないよう職員がお互いに注意を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様があり、今後も管理者、職員共々理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の説明や見学を行い、利用者様や家族の不安や疑問点、今までの生活で困難だったことを尋ね書面等を活用し十分な説明を行っている。契約時に入居の継続が困難な場合の説明、ご相談があることも説明を行い納得の上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ならびにご家族様の要望は日々のケアの中で職員が傾聴を行い運営に反映させている。管理者へも話がしやすい状況と機会を設けている。	面会の少ない状況であるがSNSでの映像や窓越しの面会を心がけている。家族の要望を聞いた職員が管理者またはユニットリーダーに伝え、職員間で話し合いを行い、管理者から家族に回答している。家族アンケートを年一回行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。管理者との距離も近く日常的に話がしやすい状況を作り、問題が発生した時には機会を設け反映させている。合わせて職員からの匿名でのアンケートも行っている。	管理者が毎日出勤し、いつでも職員が話しやすい場所におり、少しの時間でもささいな話でも聞くようにしている。法人全体の会議が月に一回あり、職員の意見をそこで話すようにしている。無記名の職員アンケートも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に5日まで希望休を申請できる環境を整え、負担の無いように休みが取りやすく、働きやすい職場を目指している。キャリアパス制度を用いて向上心を持って働けるように整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得を働きながら無理なく行えるよう休みが取りやすい環境を整備している。働きながら職員を育てるため、職員同士の交流や意見交換が行いやすい環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県グループホーム連絡協議会と浜松市のサービス事業者連絡協議会に加盟し情報を得ている。同法人にグループホームがあるため、取り組みの確認等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、アセスメントを行い本人の不安を傾聴するよう努めている。初期は特に慣れない場所での生活に戸惑いがある事を考慮して対応行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りを行い、家族と職員との交流を行っている。施設側からも協力をお願い出来るような関係性作りをし、相互に不安のない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員、ケアマネ、看護師、医師、管理者と情報共有を行い、状況・状態を把握し、本人と家族が何に困っているか不安を感じているかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、掃除を行ったり、その方の持つ能力を生活の中で発見し、役割を持って共に暮らし、支えあえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に、本人を支えていけるよう、定期的な面会を行えるように支援している。コロナ禍でもありビデオ通話での面会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに利用してきた床屋だつたり定期的に通えるように支援を行っている。馴染みの人や場所の把握を家族に聞いたり、本人から聞けるように声掛けを行っている。	今まで通っていた床屋に、職員送迎ではあるが現在も通っている利用者がいる。以前は家族と買い物に行ったり外出ができていたが、現在ではできていない。要望のある利用者には電話をしたり年賀状を書くことの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、耳が遠かったりと必要があれば職員が間に入り、関わり合いの手助けを行い、一人ひとりが孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、サービス利用が終了しても、訪ねやすい相談しやすい支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から本人の希望を聞きとり、情報共有を行い、小さなことでも本人本位での意向に沿うように、少しでも施設での生活が楽しめるように、努めている。	本人や家族から思いを聴き取り、できることは実行している。例えばラーメンが食べたいという希望に応えたり、以前美容師をしていた方が利用者の髪をまとめたり、介護士をやっていた方は、血洗いや掃除をよく手伝って頂く等過去の経験を活かす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能であれば、自宅での生活の様子を確認させていただいている。ご家族様と本人に今までの生活歴の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で、表情や行動の違いに注意をし、出来ることと、出来ていたけど出来なくなったことの把握を行い、本人に無理のない支援を行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活能力や体調、趣味趣向の把握を日常的に話し合いを行っている。家族の協力が必要な場合には、ケアのあり方について、医師も交えて意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議で話し合いを行い、計画作成者がまとめて計画を作成し、家族が確認している。前回目標であった排泄管理シート、24時間シートはまだできていないため、早急に作成し計画に生かしていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や出来事、本人が発した言葉などを介護記録へ記入し、職員間での情報共有を行っている。職員間や家族との齟齬の無いように実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、既存のサービスに捉われずに安全の確保と家族の理解が必要となってきたため、車でドライブしたり、施設内で出来る行事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、認知症カフェや施設のイベントへの参加がほとんどなくなってしまった。その中でも出来ることを探し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、月に2回の訪問診療と24時間対応での相談を行っている。適切な医療が受けられるように、関係性を築きながら本人及び家族の希望を聞き、支援を行っている。	入居時にかかりつけ医の変更をする方が多い。訪問診療は月2回あり、夜間対応や随時対応もしている。看護師が常勤であり、職員には心強い存在となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子と違うことがあれば、看護職に伝えて相談できる環境がある。介護職と看護職と協働し、本人の生活の不安を取り除けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働をおこなっている。コロナ禍で面会が行えないが、電話で日々の様子や経過の情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を定め、基本的な姿勢として、常時医療行為が必要でない限り、疼痛や苦痛が無く家族が望むような過ごし方が出来るよう対応することを契約時にも説明を行っている。日々の状況をご家族様と共有し、事業所で出来ることを説明、理解して頂き方針を共有している。	入居時にも説明しているが、食事が食べられなくなった時や主治医が看取りに入ったとの診断があった時等、全ての関係者が集まり話し合いを行っている。ここ一年で2人の看取りを行っている。新人の職員が多いため、看取り後の精神的ケアも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に初期対応をすべての職員が対応できるように努めている。提携医療機関との連絡相談が出来る環境の為、対応が分からない場合は指示を受けることも出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。夜間帯での災害想定避難訓練も実施している。運営推進会議で地域との協力についても話し合いを行っている。	避難訓練と夜間訓練は行っている。備蓄も7日間用意できている。以前停電が起きたためランタンも準備している。災害について、自治会との話し合いは進んでいない。	場所的に別荘が多く、地域住民が住む住宅街から少し離れている。自治会との話し合いを行い、災害時の協力体制が構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するとともに、目上の人への対応という事を常に意識するため、苗字での声掛けを行っている。否定をしない言葉かけや対応をしている。排泄確認にも気を配り対応している。	利用者の呼び名は名字に統一しているが、同じ苗字の方にはフルネームで接している。フロアに近いトイレにはなるべく誘導しないようにしている。失敗時に他利用者の目がその方に行かないように注意を払ったり、子ども扱いはしないように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を日常の会話などを通じて把握できるよう声掛けを行っている。小さなことでも自己決定行えるように、確認してから手伝いをさせていただいたり、誕生日に好きな物が食べられるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合で、実際に動いてしまっている事実を職員は理解し、少しでも一人ひとりのペースや希望に合わせて、支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用開始前までの、その方の身だしなみやおしゃれを継続して出来るように、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し出来る範囲で提供を行う。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食は職員の手作りである。朝、夕食は温めるものを外注でとっている。献立は、買い物に行く職員が立てるようにしている。食事は職員も一緒に食べ、準備や片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に把握している。一人ひとりの状態に合わせて食形態を変えたり、好みを把握して提供している。月に一度体重測定を行い、食べる量やバランスに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて促し、イソジンでのうがいを歯磨き、入歯の方は週に一度、入歯洗浄を行っている。口腔ケアが自分では行えない場合は、その方にあつた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援の為、出来る限りオムツの使用は控えている。排泄パターンや行動を注視し、失敗のある前に声掛けや誘導を行っている。	寝たきりの方は、オムツ介助となっているが、それ以外の方には時間誘導を行っている。個人個人のペースに合わせたいとの思いがあるが、シートがまだできていないため、早急に作りたいとの思いがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時と15時に体操を行っている。夕食時オリーブオイルを味に影響が無いように使用したり、個々に応じた予防と排泄の確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回のペースで入浴を行っている。個々の希望によって入浴を行えるように支援している。時間帯は決まってしまう。要望があれば、足湯を提供したりしている。	週に2回、14時から16時の間を入浴時間になっている。入浴剤やゆず湯なども行うが、ミカンの産地でもあるのでミカンの皮を入れている。湯上りに、保湿クリームを塗ったり、以前使っていたシャンプーやリンスを使っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、入眠時の服装や室温の調整を行っている。夜間に眠れない利用者様に対しては話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量をファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。症状に変化があれば看護師へ報告相談し適切な対応が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、会話の中でやりたいことを見つけ、気分転換をして頂けるよう役割を持っていただいたり、コミュニケーションを取り楽しめるような環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもあり、外出や買い物は少なくなりましたが、行きつけの床屋や、車から降りずにドライブに行ったりという支援を感染症予防に努めながら行っている。	外出の制限をしているため、主に施設の周りを散歩している。時には昼食を桜の木の下で摂り気分転換している。以前は季節の花を見にドライブがてら出かけており、感染症の状況により、再開したいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の所持を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をしたりできる環境を、ご家族様との相談、協力の下に整備、支援している。手紙のやりとりも行い、個々人の居室に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりの為、一人ひとりの気温の感じ方の情報収集をしたり、季節ごとの掲示物を作ったりして工夫をしている。	季節ごとに習字や桜の花、ミカンなどをちぎり絵や塗り絵で作りフロアの壁や居室に貼っている。外で食事をした時の写真を張り出したりもしている。フロア内にアロマの香りを効かせて癒しの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所づくりの為、日々の様子を観察し席替えを行ったり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を何点か持ち込んでいただき、本人の部屋と認識できるような、居心地の良い居室づくりに配慮している。	自分で作ったちぎり絵や塗り絵を張っていたり、以前から使っていたタンスやテレビ、机や椅子を持ってきている方もいる。匂いの気になる方は、心地良いアロマの香りを効かせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物の高さや、案内表示などを工夫しつつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		